

平成27年度
大学間連携共同
教育推進事業



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE

日本学術振興会

取組名称：ITを活用した超高齢社会に対応できる歯科医師の養成
 連携校名：昭和大学（代表大学）、岩手医科大学、北海道医療大学

■事業の目的・養成する人材像

超高齢社会の到来に備えて全身と関連づけて口腔を診ることができ、基礎疾患を有する患者に対して歯科治療を安全に行える歯科医師を養成する。

■事業の概要

連携体制をとってきた北海道、北東北、関東の3大学と地域医療教育を担当する歯科医師会が協働して、①臨床推論能力、②コミュニケーション能力、③自己評価能力を養成するために3年間の歯学教育必修プログラムを構築するのが特徴である。



■連携のメリット

歯科医師会の協力で実施している地域連携歯科医療実習の実施方法と実習内容について、3連携大学で共有し、同じフォーマットの電子ポートフォリオを活用することによって、実習の教育効果を3連携大学で一緒に評価を行い実習の改善を図るとともに、歯科医師会と密接な連携をとり、生涯学修教材も協働で開発する。

■取組内容・成果

○教育改革

①臨床推論能力、②コミュニケーション能力、③自己評価能力を養成するために、まず基礎的な知識をeラーニングで身につけ（Step1）、臨床推論能力、コミュニケーション能力を仮想患者教育システム（VP）で養成し（Step2）、臨床における自己評価能力を電子ポートフォリオで養う（Step3）ITを活用した3年間の歯学教育必修プログラムを構築するのが目的である。現時点でStep1,2は3連携大学で正規の必修カリキュラムとして教育が実施されている。



■連携機関

<ステークホルダー>

東京都目黒区歯科医師会

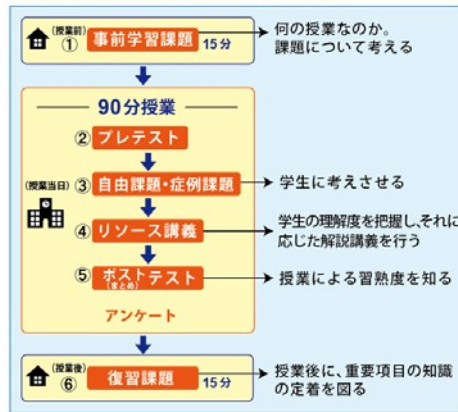
超高齢者社会をむかえ、これからの歯科医師に求められるのは患者さんの全身の状態やライフステージに応じた診療を行う事ができる歯科医師です。いろいろなご病気があり、お薬を飲んでいる患者さんに安心して歯科診療を受けてもらえるようにするために、また口腔乾燥や味覚障害などで悩んでいる高齢者の方々にお役に立てる後輩を養成するために本事業に協力しています。

○ステークホルダーとの協働・評価体制

各大学で歯科医師会からのフィードバックをもらいながら、実習および実習前の授業の充実を図っている。年2回開催するワークショップで3大学の教員と地域医療実習を支援指導するステークホルダーである9つの歯科医師会の先生方が、教育に関して良いところ、改善すべき点をフィードバックし、他大学の実習内容も参考にすることにより活発なディスカッションを行いながら、地域と連携したより良い実習ができるように改善を図っている。本取組の到達度評価委員会にも歯科医師会のメンバーに入っていたいただき、ご意見をいただいている。

○IT教材を活用した能動型授業
Active learning

受け身の講義から能動的・双方向の授業へ



■具体的な事例

○事例1「Step1 口腔医学とチーム医療Ⅰ」
全身と口腔の関連に関する基礎知識の修得

3年生を対象として「口腔医学とチーム医療Ⅰ」を連携校合同で実施している。内容は口腔乾燥症、基礎疾患を有する患者に対する歯科診療、チーム医療（急性期と回復期）であり、連携する3大学と関連9歯科医師会と協働して作成したeラーニング教材とポートフォリオを活用した授業を合同で実施することにより、学生は授業に能動的に取組み、授業開始時に実施するプレテストと授業終了時に実施するポストテストの平均正答率を比較すると、プレテストでは42%であったが、ポストテストでは91%に上昇していた。したがって超高齢社会、基礎疾患を有する患者に対する歯科医療、チーム医療、口腔乾燥症に関する知識が得られたと考えられる。

○事例2「Step2 口腔医学とチーム医療Ⅱ」
コミュニケーション・臨床推論能力の養成

4年生を対象として「口腔医学とチーム医療Ⅱ」を連携校合同で実施している。内容は医療面接による情報収集力や知識を臨床に応用す

る力であり、VP（仮想患者システム）やビデオ、eラーニングを活用している。アンケート結果やポートフォリオの記載から臨床現場を意識した学修ができたと考えられる。またVPにおける血圧の確認、常用薬の確認、重篤な既往歴、他科への通院歴、基礎疾患の発症時期、基礎疾患に対する服薬の確認の6項目について、VPに対する平均質問率を計測した。平均質問率はオリエンテーションでは17%であったが、授業においては60%に上昇していた。



達成目標	24年度実績	26年度実績	28年度目標
履修者数(3大学計)	198	395	588
同一問題に対する平均正答率	60%	75%	80%

■今後の取組

○症例教材の開発：5年生に対して、3年生、4年生で学んだ内容を応用して、診断や治療方針の決定を行い臨床実習で活用できるeラーニング・VP教材を開発する。
 ○3大学共通試験の実施：5年生に対して、本事業でおこなった授業で取組んだ学修の到達度を評価するための3大学共通の習熟度評価試験を実施し、本取組の成果を評価する。
 ○3大学の地域医療実習を中心とした学生間交流：各大学の5年生3名がスカイプを活用して、それぞれの大学の地域医療実習について発表とディスカッションを行う。その後ITを用いて、ディスカッションを行い、3大学混成グループでプロダクトを作成する。
 ○学生インタビューの実施：本取組の良い点、改善すべき点を明らかにし、より良い取組にするためにインタビューを実施する。

■学生の声

ITを活用した授業を受けて感じたこと



昭和大学
歯学部 3年生

渡辺 理絵

ポートフォリオにより、歯科医師としての未来像を明確にしていけることができたため、大変有意義なものであった。また目標書き出しシートや振り返りシートによって講義の目的や到達度をその都度振り返ることができ、より習熟度を高めることができた。また、e-learningの予習課題により、講義の全体像と自分の理解度を把握した上で講義に臨めるため、より身についた。講義で理解したつもりになってしまいがちに身につけていない部分について復習課題で再確認できたため大変役立った。